

高齢者用衣服－ボタンのかけはずしについて－

猪又 美栄子 ○中村亜矢子（昭和女子大）

＜目的＞ 高齢者は、加齢によって運動機能の低下が生じ、衣服の着脱に関する動作などがしにくくなる。ボタンかけ動作では、袖口ボタンのかけはずしがしにくいなどの指摘がされている。また高齢者の既製服に関する問題点の一つとして袖丈が長いことが上げられている。そこで袖丈の長さで袖口ボタンのかけはずしのしやすさについて検討するため着用実験を行った。

＜方法＞ 実験の要因としてブラウスの袖丈を取り上げ、手首点より6cm長い袖丈から2cm短い袖丈まで2cm刻みに5水準設定した。着脱動作をビデオ撮影しボタンかけはずし動作の所要時間を測定した。同時に、かけはずしのしやすさの官能検査と手先の器用さの測定検査3種類（狙準検査・共応検査・リング挿検査）を行った。被験者は健康な60歳代から80歳代の女性18名と、本学20歳代女性9名である。

＜結果＞ （1）手先の器用さは高齢者は3種類の検査とも若年者より低下していた。

（2）所要時間の分散分析の結果、高齢者と若年者でボタンかけ所要時間に差があることが分かった。高齢者を60歳代・70歳代・80歳代の年代グループに分けて分散分析を行った結果、グループ間の差が1%の危険率で有意となり加齢によってボタンかけの所要時間が増えることが認められた。（3）前ボタン1個当たりのかけはずし動作の平均所要時間を比較すると、袖口ボタンのかけはずしの方が3倍近くかかり、高齢者の動作では袖口ボタンのかけにくさが問題であることが確認された。（4）ビデオ観察の結果、袖丈が長めの場合、若年者と高齢者では袖口のボタンかけ動作が異なることが観察された。